

「病いの語り」研究と ナラティブ・アプローチ

DIPExのベースになる概念・理論を学ぶ

講師 **菅野摂子先生**

埼玉大学ダイバーシティ推進センター准教授

10月8日(火) 18:00~20:15

人類学や社会学の知見に裏打ちされた「病いの語り」研究やナラティブ・アプローチの歴史を振り返り、ナラティブがどういう過程で学術的研究に使われるようになったのか、また医療の中で重要視されるに至った経緯や関連する概念を学びます。ナラティブは今日多くの研究で用いられていますが、今回は社会学を起点として、質的研究と量的研究との比較や、多様な質的研究もご紹介します。医療者にとって「病いの経験」を解釈する方法としてナラティブを使うことには大きな意義があります。社会学などの知見を活かしながら、EBM（エビデンス・ベースド・メディスン）と併せてNBM（ナラティブ・ベースド・メディスン）を概念として理解し、有効に使えるように、ワークショップも取り入れます。最後に質的研究における調査倫理に射程を延ばし、ナラティブの収集や利用の際に意識しなくてはならない倫理問題について考えます。

※「健康と病いの語り概論」（科目責任者：射場典子）の第2回講義をどなたにもご参加いただける公開講座とするものです。

定員：20名（お申込み多数のときは先着順）

参加費：無料

お申し込みフォームには、下記のリンクまたはQRコードよりアクセスしてください。

<https://forms.gle/TRqjg1UoYezqVUJ96>

申込期限：10月5日(土)

※フォームへアクセスできなかった方はメールにてお問い合わせください。



お問い合わせ：ch.ksy@slcn.ac.jp（糟谷）

主催：聖路加国際大学大学院看護学研究科 射場典子・糟谷知香江

第3回 対面開催

音楽療法 への招待

講師 **伊藤 マミ 先生**

聖路加国際病院緩和ケア科 音楽療法士

10月9日(水) 18:00~20:15

音楽療法はヘルスヒューマニティーズの重要な実践のひとつであり、欧米では病院・社会福祉などの現場で広く普及しています。ドイツでは音楽療法士は州の認める資格であり、音楽療法が保険適用され、非薬物療法として音楽が心理療法の一環として社会に浸透しています。本講座では、ドイツにおける音楽療法の一場面を動画でご紹介し、音楽療法の歴史や定義を踏まえた上で、ドイツでの音楽療法の資格を持つ講師の独自の視点から音楽療法についてワークショップを交えて学びます。今回は、特に音楽療法士の「聴く力」に焦点を当て、スピリチュアルケアとしての音楽療法について考察します。具体的には、患者さんやご家族に音楽療法はどのように働きかけるのか、病院ではどのようなアプローチで音楽療法が行われているのか、病院のチームの中で音楽療法はどんな役割を担うのかなどについて、事例をもとに、そして実際の「音楽」を聴く体験を通して、音楽療法の可能性についてみなさまと一緒に考えてみたいと思います。

※「ヘルスヒューマニティーズ概論II」（科目責任者：井上麻未）の第2回講義をどなたにもご参加いただける公開講座とするものです。

定員：20名（お申込み多数のときは先着順） 参加費：無料

場所：大村進・美枝子記念聖路加臨床学術センター 3301教室 （東京都中央区築地3-6-2 3階）

お申し込みフォームには、下記のリンクまたはQRコードよりアクセスしてください。

<https://forms.gle/SdYnrNmpLKhUeW9HA>

申込期限：10月5日(土)

※フォームへアクセスできなかった方はメールにてお問い合わせください。



お問い合わせ：ch.ksy@slcn.ac.jp（糟谷）

主催：聖路加国際大学大学院看護学研究科 井上麻未・糟谷知香江